

平成29年度第3回岐阜県障害者施策推進協議会 議事概要

1. 日 時 平成30年2月14日（水） 13：30～15：30
2. 場 所 岐阜県水産会館 1階 大会議室
3. 出席者 別紙
4. 議 題
 - (1) 「第2期岐阜県障がい者総合支援プラン」について
 - (2) 平成30年度障がい福祉関連の主要事業（案）について

5. 議事概要

<開 会>

- 開会挨拶（健康福祉部長）
- 会議趣旨説明（事務局）

<議 事>

1 「第2期岐阜県障がい者総合支援プラン」について

※意見・質疑応答（⇒の部分は、回答及び説明）

- プランに記載いただいた盲養護老人ホームについて、早急に実現できるようお願いしたい。
⇒実現に向け関係者の協力をいただきながら進めてまいりたい。

- 経過措置を経て難病の医療費助成の認定が新基準に統一された。医療費助成の申請が却下されたとしても福祉サービスの対象になることを、住民へ繰り返し呼びかけてほしい。
⇒障がい者福祉の手引を作成し、市町村を通じて住民に周知している。市町村を対象とした会議の場において必要な対応をとりたい。

- 切れ目のない支援を行うための人材養成として、座学だけではなく、宿泊を伴う体験研修などを行う必要がある。
⇒座学では習得できない部分が多いので、実地の研修を重視している。様々なバリエーションの研修を進めてまいりたい。

- 発達障がいの人との意思疎通は綿密に対応していかなければならない。これも体験や専門的な知識が必要。ピアサポートについても、一概に発達障がい児者とひとくくりには出来ず、それぞれの特性に応じて考えなければならないので、専門家を育ててほしい。
⇒意思疎通支援や、ピアサポートの研修も重要な研修と考えており、体験型も含めて、研修の見直しを進めていきたい。

- プランのパブコメについて説明があったが、「手話言語の普及及び障害の特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する条例」のパブコメについては、どうだったのか。
⇒50名程度の人から、70程度の意見をいただいた。現在県議会において、回答をとりまとめているところ。
- 県が作成する番組に字幕だけでなく、手話を挿入することも検討してほしい。
⇒段階的に進めてまいりたい。
- 地域において、出生時から就学までを見ていく人材が十分ではない。せめて、どこへ行って相談すれば解決するのか情報提供する冊子やソフトを作成してほしい。
⇒市町村を中心に、保健師が検診時に、妊娠、出産、育児を継続的に支援する体制を作っていきたいが、保健師も十分ではないので、情報支援についても検討していく必要がある。

2 平成30年度障がい福祉関連の主要事業(案)について

- 発達障害者総合支援法を踏まえ、身体・知的障がい者相談員への研修に発達障がいを含めてほしい。
⇒発達障がいについては新しい分野であり、理解が不足していることから、発達障がいに特化した理解啓発を行ってまいりたい。
- ぎふ高等特別支援学校について、知的障がいのB2しか受け入れないのでなく、発達障害者支援法と整合をとり、自閉症の子にも配慮してほしい。
- 子ども相談センターの判定員の理解力によって、表面上だけでB2をつけられてしまうことがある。判定員の専門性を高めてほしい。
- 「手話言語の普及及び障害の特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する条例」の対象として、発達障がいも含まれるはず。発達障害者支援法に、意思決定支援に配慮するとあるので、発達障害者の意思疎通支援についてももう一度見返しを。
⇒検討されている条例は、コミュニケーションとして障がいのある人とならない人をつないでいくということであり、意思疎通支援とも関係するが、意思決定支援については、「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」の中で、支援してまいりたい。

- ホームドアについてJRは、JR岐阜駅は乗降客が少ないので、設置できないとのことだった。岐阜県は観光にも力を入れており、安心して観光していただくためにも、ホームドアを整備してほしい。
- 小児科医のみならず、一般のかかりつけ医が、発達障がいについて知る必要がある。
 - ⇒今年度小児科医を対象に、発達障がいについての研修を行い、手ごたえがあった。小児科医だけでなく内科医等、かかりつけ医に広く知っていただきたいので医師会と協力し、来年度以降も充実させていきたい。
- 報酬改定について、職員の給料を多く払うと、報酬の加算があるなど、量から質へ考え方が変わってきた。今後量ではなく質で事業を評価するとともに、監査の方法なども工夫してほしい。
- 特別支援学校の整備が進んでいるが、卒業後の受け皿があるのか疑問、特別支援学校を卒業する人たちにとってどこが適正な進路なのか、きめ細かい施策が大切。
 - ⇒高等特別支援学校での職業教育に特化した教育により、就職先の拡大を進めている。それに伴い、その他の特別支援学校でも、様々なニーズにこたえるような施策を進めているところ。
- 厚生労働大臣賞を受賞した大垣市の子の作文において、障がいを持つ弟が特別支援学校へ行った方がいいと学校から指導を受けたことへの疑問を書いている。そういった意見が受賞したことは大変意味のあること。
 - ⇒多様な学びの場ということで、本人のニーズに応じた教育ができるよう進めているところ。
- 大阪府寝屋川市で、両親が精神障がいのある子を監禁し、死亡させる事件があった。世間の目が厳しいため近所との関係が希薄になる親がいることが背景にある。
- 愛知県で自閉症の子どもがたらい回しになり、親が殺害する事件があった。入所施設が減らされ、本当に重い人は施設も受け入れが難しいという実態の中で、重い人をどこで見るといふ問題を検討してほしい。